



**TAIYO YUDEN**

太陽誘電モバイルテクノロジー株式会社

会 社 案 内



# 通信デバイスを中心にすべてのステークホルダーから信頼され続ける。 そして、感動を与えるエクセレントカンパニーへ

## 太陽誘電モバイルテクノロジー株式会社

当社は2010年に太陽誘電株式会社の経営傘下に入り、スマートフォンやタブレット端末などの移動体通信機器に欠かせない通信デバイスに特化した専門メーカーならではの役割を担っています。通信技術の高度化・小型化、中国をはじめとする海外のスマートフォン・セットメーカーの新たな台頭など、変化の激しい市場動向を見据え、独自技術を切磋琢磨し続けて取り組んでいます。



# 「TAIYO YUD EN」

## ネットワーク

### 太陽誘電株式会社

1950年の創業以来、コンデンサをはじめ、インダクタ、FBAR/SAWデバイス、回路モジュール、エネルギーデバイスといった各種電子部品の研究・開発、生産、販売を行ってきました。現在では、グループが一丸となり、スマートフォンやタブレット端末、AV機器などの電子機器、さらには、IT・エレクトロニクス化が加速するカーエレクトロニクス、産業機器、医療・ヘルスケア、環境・エネルギー分野においてお客様のニーズに幅広く対応しています。

エルナー株式会社

太陽誘電エナジーデバイス株式会社

太陽誘電テクノソリューションズ株式会社

太陽誘電ケミカルテクノロジー株式会社

株式会社環境アシスト

新潟太陽誘電株式会社

サンヴァーテックス株式会社

和歌山太陽誘電株式会社

福島太陽誘電株式会社

### ■ 太陽誘電モバイルテクノロジーの企業理念



代表取締役社長 伊形 理

カスタマー  
セントリック  
Customer Centric

ネットワーク社会  
発展への貢献  
Contribution to  
Development of  
Network Society

従業員の幸福  
Employee Well-being

## TOP MESSAGE

成長を目指し、  
失敗を恐れず、独自技術の  
イノベーションをこれからも。

スマートフォンやタブレット端末に不可欠な通信デバイスなどの高周波部品の開発・製造に特化した専門メーカーである当社は、活況を呈する市場動向に恵まれ、生産設備の増設や新たな製造拠点の立ち上げ、人員の増強などにより、売上・利益ともに伸ばし、安定した右肩上がりの成長を実現しています。

しかしながら、変化や競争が激しい市場にあって、今後も独自技術を強みとした成長を継続していくためには、山積する課題をひとつひとつ着実に解決し、つねに革新の意識をもち続け、成果につなげていくことが重要です。

次世代通信規格5G、またその先の新たな通信規格の実用化に向けてさらなる高性能化・小型化に取り組んでいます。当社としては、培ってきた得意技術をさらに高めるとともに、新たに追加しないといけない技術は何か、それをいち早く見極め、お客様が求めるニーズに的確に応えていける進化を急いでいます。

現状に甘んじることなく、チャレンジ精神を旺盛にして失敗しながらも前に進める組織と人材をつくる。そのイノベーションが私たちの急務です。

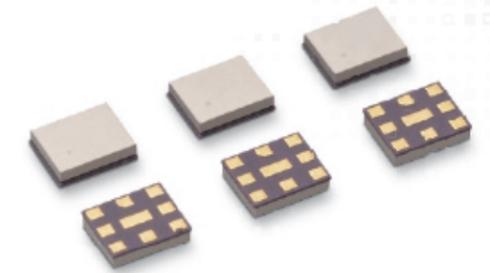
# モバイル・コミュニケーションの今を、そしてその 先を。

太陽誘電モバイルテクノロジーは、その社名が示すとおり、スマートフォンやタブレット端末などの移動体通信機器に必ず搭載される各種電子デバイスの材料から部品に至る研究・開発、製造、プロモーションまでを一貫して展開しています。



## PRODUCT

### FBARデバイス SAWデバイス



#### 概要と基礎知識

水面に小石を投げ入れると、波紋が起これ、波が周囲へと伝わっていきます。これは、自由表面の弾性体では表面に伝搬する波が局在している現象を意味し、弾性表面波 (SAW: Surface Acoustic Wave) といいます。SAWデバイスは、電気信号を圧電性材料の表面を伝わる弾性表面波に変換して必要な波長・周波数だけを取り出す素子(部品)です。一方、FBARデバイスは、圧電薄膜共振子 (FBAR: Film Bulk Acoustic Resonator) という動作原理を用い、SAWデバイスよりもさらに高い周波数帯に対応できます。

#### デバイスとしてのフィルタ

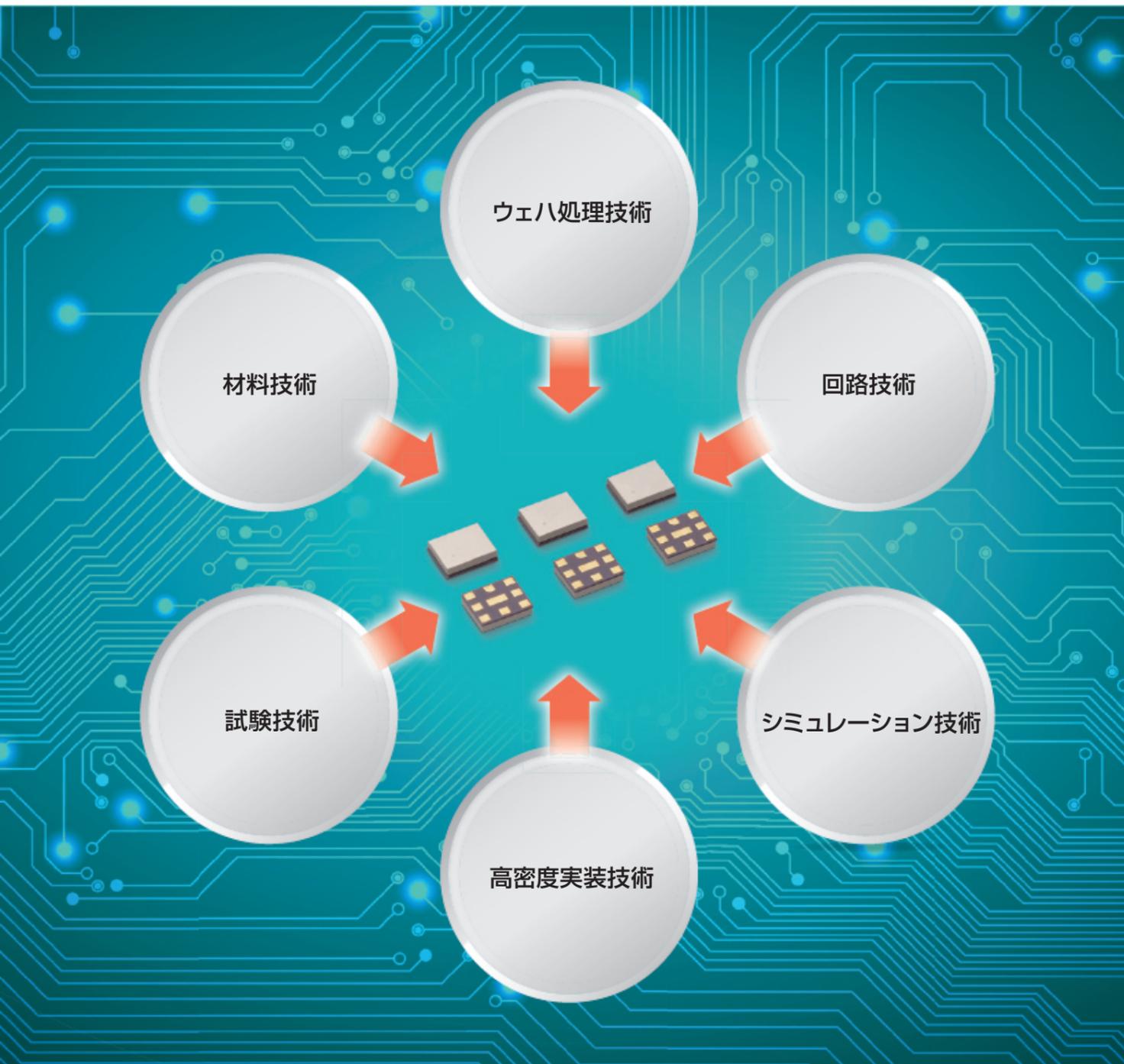
FBAR/SAWフィルタは、圧電という電気的性質を利用し、さまざまな周波数が混在した電気信号から、ある特定の波長・周波数の信号のみを得る部品です。これにより携帯電話の音声からノイズ(雑音)が取り除かれ、通話が明瞭になるなど、通信情報をクリアにすることが可能になります。

#### デバイスとしてのデュプレクサ

デュプレクサは、移動体通信機器において、アンテナを介して信号の送信と受信を同時に行う部品です。アンテナ送信と受信の3つのポートを有し、FBAR/SAWのフィルタで構成されています。ディスクリット(単体素子、単一機能部品)として用いられたり、他の用途の部品と組み合わせたモジュールとして利用されたりしており、高性能化・小型化へと進化する中にあり、カスタマイズ化と小型低背化のニーズは急速に高まっています。

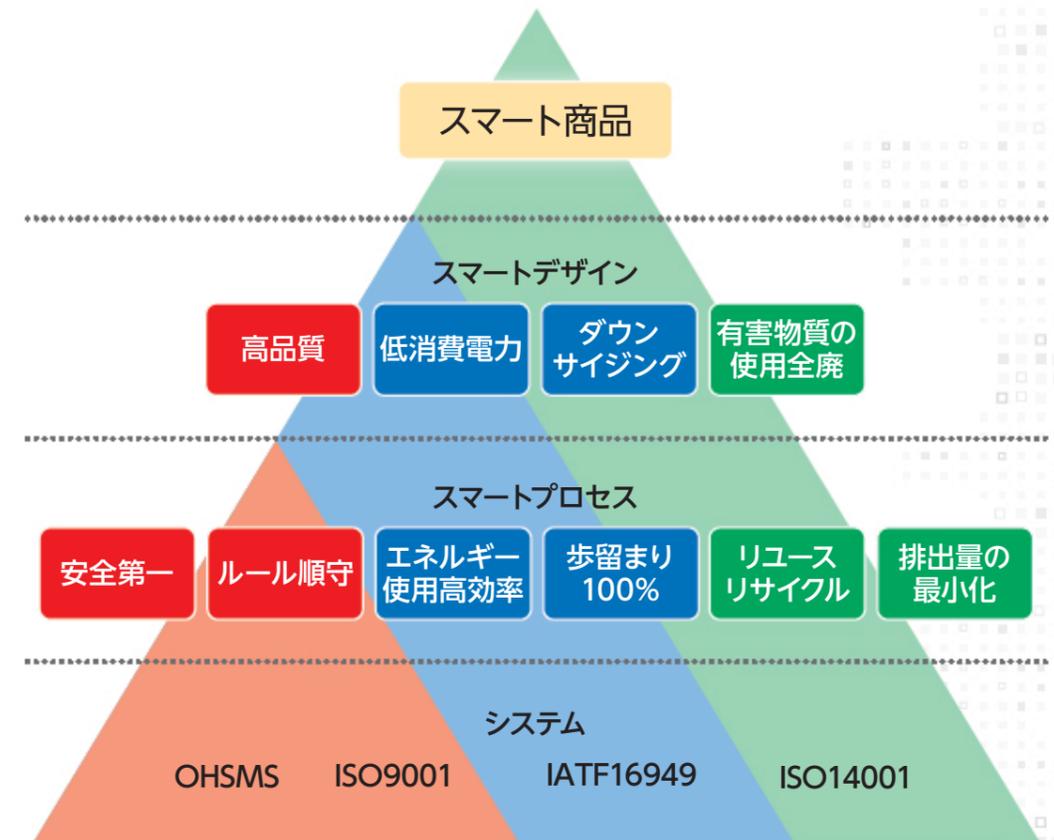
# 最先端の生産環境とたゆまぬ**独自技術**をもとに、 カスタマイズ化に対応した製品づくりを実現しています。

太陽誘電モバイルテクノロジーは、長年にわたり積み重ねてきた材料や電子回路に関する豊富な実績と独自技術を強みに、製品設計から製造、プロモーションまでを一貫して提供できる生産供給体制を構築しています。



## ■ スマート商品への取り組み

すべてのステークホルダーから信頼され  
感動を与えるエクセレントカンパニーへ



スマートデザイン	高品質	顧客要求を満足し、信頼の高い製品
	低消費電力	優れた能力をもち、電力を大量消費しない製品
	ダウンサイジング	少ない材料で大きな能力を発揮し、最終商品の小型化・高機能化に貢献する製品
	有害物質の使用全廃	有害物質を含まない製品
スマートプロセス	安全第一	安全が考慮された生産工程で作業者がムリなく、安心して作業できる
	ルール順守	ものづくりにおけるバラツキを小さくするため、標準化された手順に従って作業する
	エネルギー使用高効率	ものづくりで使用するエネルギーを極小化する
	歩留まり100%	高品質な製品を安定生産し、不良品などのムダを発生させない
	リユース・リサイクル	生産に必要な材料はできる限りリユース(再使用)品・リサイクル(再利用)品を使用する
	排出量の最小化	生産工程におけるムダと排出物をできる限りゼロに近づける
システム	労働安全衛生、品質、環境などのマネジメントシステムであるOHSMS、ISO9001、IATF16949、ISO14001をスマート商品開発の推進ツールとして活用する	



## 人材と地域といっしょに歩み続ける。 そんな存在をめざして、 さまざまな活動を行っています。

### 太陽誘電グループ社会的責任に関する憲章 (CSR 憲章)

#### 事業

- 社会的に有用な製品・サービスを安全性に十分配慮して開発・提供し、お客様の信頼を獲得します。
- 事業活動が与える環境影響を低減し、地球環境保全に取り組みます。
- 公正、透明、自由な競争を行うとともに、政治・行政、市民及び団体との健全な関係を維持します。

#### 人

- 多様性を理解し、あらゆる人々の人格、個性を尊重します。
- 安心して働ける環境作りに努めます。

#### 社会

- 各国、地域との調和を大切にするとともに、社会貢献活動に取り組みます。
- 広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報の適時適切な開示に努めます。



### ■ 人材

#### 人材育成



能力が存分に発揮できる環境を整え、多様な人材の育成に注力しています。

#### 表彰制度



業務上有益な発明改良や工夫考案をした方、永年誠実に勤務し功労ある方などの表彰を行っています。

#### 部活動



従業員がオフタイムにも充実した時間を過ごすことができるよう様々な部活動を推進しています。

#### 福利厚生



従業員の健康増進、チームの団結と融和を図る為、キックベースやボウリングなどの健康増進スポーツイベントを定期的実施しています。

### ■ 地域活動

#### 安全・衛生活動



地域の行政、消防、警察などと連携し、年2回以上の訓練に取り組んでいます。

#### 環境活動



本社屋上にはテニスコート約5面分の太陽光発電設備を設置しています。また、リサイクル活動も積極的に行っています。

#### 清掃活動



周辺道路や公園など幅広い清掃活動を行い、快適に住みやすい地域づくりの一助となるよう活動しています。

#### 献血活動



社会貢献の一環として、血液製剤の需要増加に沿った献血活動を実施しています。

# 太陽誘電モバイルテクノロジー発の日本製品を 世界中の移動体通信機器メーカーへ。

青梅本社/工場 (東京都青梅市)



テクノロジーセンター



所沢工場



## PROFILE

### 太陽誘電モバイルテクノロジー株式会社

- 本社 〒198-0024  
東京都青梅市新町6丁目16番地3号  
TEL.0428-33-3600(代表)  
FAX.0428-33-3905
- 代表取締役 伊形 理  
社長 (いかた おさむ)
- 設立 2010年3月31日
- 資本金 1億円
- 事業内容 電気機器、通信機器、  
電子機器の部品の開発・製造
- 事業所
  - ・ 所沢工場  
〒354-0046  
埼玉県入間郡三芳町竹間沢東1番地1号  
TEL.049-257-1900(代表)  
FAX.049-257-1904
  - ・ テクノロジーセンター  
〒380-0928  
長野県長野市若里4丁目12番地22号  
Sビル3階  
TEL.026-229-0150(代表)  
FAX.026-229-0151
- 沿革
  - 2010年3月 太陽誘電株式会社の100%出資子会社として設立
  - 2011年8月 所沢工場開設
  - 2012年7月 製造子会社の太陽誘電モバイルテクノロジープロダクツ株式会社と統合合併
  - 2014年4月 東京都青梅市に事業所を開設
  - 2014年7月 本社を神奈川県横浜市から東京都青梅市に移転
  - 2017年3月 テクノロジーセンター開設

私たちは

**技術力・商品力No.1**

**Quality First**

(品質第一)

**Challenge for the  
Realization**

(具現化への挑戦)

をつねに心がけ、  
成長し続ける企業として  
邁進していきます。